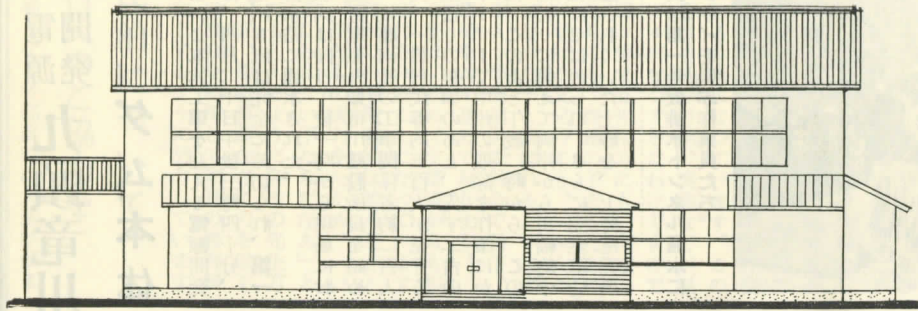


和泉村教育センター完成予想図



教育センター着工

総工費 四八〇万円、六月末完成

教育の殿堂として、福井県下に初めてのへき地教育を重点とした、和泉村教育センターがいよいよ建築されることとなった。

総工費四百八十万円、六月末完成を期し東越土建株式会社の手で着工しています。

この教育センターは、図書室、資料室、会議室、学習室、視聴覚室、その他に事務室、応接室など八つに分れています。既報のとおりこの教育センター専任の佐々木孝章充指導主事も、既に四月一日から着任、村教育委員会で事務を始めておられます。

いずみ論壇

村再建の具体性

最近長期計画とか何年計画とか言う言葉をよく聞き、また実際にその計画完成を目ざす努力によって、経済基盤の向上や国連の進展がはかられています。

す。現に今和泉村内に施工されつつある大電源開発計画もその一つであります。大きな事はさておいて、小さい一村の将来についての計画の策定も非常に大事な事であり、戦前の物の考え方、また何事も国や県のお指図に従って運行された一村の行政(たとえば村長が村長の職に就く前に県知事の認可をもらったものです)とは打って変わり、地方自治が強調される今日となつては、村の首長や議員は申すに及ばず村民自体も各自何らかのイメージを持つて、そのイメージの実現にはマスコミを高度利用して己れの自信を高揚すると共に、選挙に反映して日進月歩の改善をはかることが自分の責務となつて来たのであります。

さて、ではその一村の将来の計画の策定をする場合どんな方法がとられているのでしょうか。それには三つの方法があると思います。

その一つは、村当局が予算編成に当たつてその基礎資料に三年なり五年なりの自らのアイデアと部下組織の動員の



発行所
福井県大野郡
和泉村

(昭和41年4月1日現在)

村の人口	1人
出生	1人
死亡	87人
転入	71人
転出	71人
総人口	3,897人
男	2,058人
女	1,839人
世帯数	1,164世帯

村の面積
392.26平方km

今月の目標

- ▲野山の新緑と共に健康増進の適期です。大いに戸外に運動しましょう。
- ▲新鮮な野菜などもりもりたべて、冬期のビタミン不足を解消しましょう。
- ▲早起き三分の得、子供にも早起きをさせましょう。

もとに立案策定する方法。

二番目には、村当局ばかりでなく、議員や専門家の参加を求めて立案策定する方法。

三番目は、専門家に委託して、報告書の提出を求め、その報告を尊重して行う方法。

この三つの方法の一つ一つについてその長所と短所を考えてみましょう。

(一)は、当局がどれ程村民の意向を探り入れるかということが問題で、独断に陥る欠点はあつても、財政の収入面とよく照合した立案をするので実現性が手堅いという長所がある。

(二)は(一)の欠点を抑える目的のもとによく行われる方法ではあるが、「船頭多くして船山へ上る」というキライがあり、財政面で総花式予算に終り従つて小規模のチビ／＼した仕事しか出来ない欠点があり、長所としては地区住民の意志が充分反映されたものができることであろう。

(三)は学理的な水準が高ければ高いもの程敬遠されて利用度が少ないという奇妙な現象が各所で聞かれる。併しこれが理想通りに行われれば、立派なもので、高速自動車道のインターチェンジがそのよい事例であろう。

以上いささか区分して考えてみましたが、先に本村に設置された和泉村再

建方策審議会は、(二)番目の方法によつたものでありましょう。さすれば、地域住民の意志はよく反映するが、所謂重点施策が行われ難い事を警戒する必要がある、何と言つても和泉村は朝日を中心とした考え方を進める事が重点施策となり、町制に切り替える時機を考えるのもあながち形式的と一笑に付すべきでないと考えます。

舗装された朝日本通り

昨年末に完成するはずだった朝日本通りの舗装工事は、昨年の災害の影響を受けて延期されていたが、この程ようやく完了した。

「ジープが俺の顔にまでどろをひっかけた」やれ「石が飛んできてうちのガラスを割ってしまった」など、道並の無理からぬ苦情もこれではなくなることでしよう、さあそこでこんどは交通地獄に落ちないよう特に子供に用心。

写真写真は舗装された派出所前の交差点



◎ 広報は、家族みんなで読みましょう

電源 九頭竜川を締切る

ダム本体工事に突入

いよいよ本体工事を迎える電源開発事業は、四月二十日午後三時四十分、九頭竜川本流は完全に締切られ、第一号排水路に通水された。

通水式は同日午後一時から現場において上野電発九頭竜川建設所長を始め鹿島、佐藤両社の工事関係者約二百人が参列、一般村民等約五百人が見守る中に型通りの神事のと、先ず二台のブルドーザーで中州の取除き作業にかかった。このあと午後二時から、この日の締切りに備えて両岸から川幅約十五米位にせまられ、さらに完全締切に用意されていた土砂を、上野電発所

写真は第一号排水トンネル通水にバンザイを叫ぶ作業員たち。



長の合図で両岸に待機していた七台のブルドーザーが一斉に発動、九頭竜川に落ちた。さしもの九頭竜川も徐々にせき止められ、午後三時四十分には完全に締切られた。

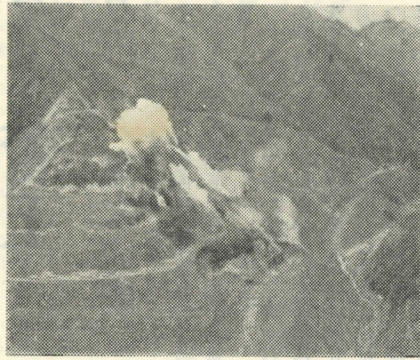
一方締切られた水は、左岸第一号排水トンネルにドッと流れ込んだ。このとき、上野所長は排水路入口につり下げられていた二斗ダルーお神酒のロー

日本最大の大ハッパ!

長野ダムの原石山採集場のハッパは四月二十三日正午を期し、約二百トンの火薬が坑道式ハッパで爆破された。起爆十秒前から秒読みが始まり、三、二、一、爆破。の声と共に、原石山西方約五百米の山かげに待機する友竹点火副班長の手で点火スイッチが押された。一瞬山肌が持上るようにして山すそがぐずれ落ちた。

またこの日、NHKや福井新聞を始め各新聞社やテレビ会社など報道陣約二〇名が、鹿島建設九頭竜作業所の裏山約三百米の高所でこの爆破の一瞬を記録していた。なお現場から一千五百米離れた特設観覧場所には作業員の外一般見学者約二千人が詰めかけていた。爆破に備えて、各所に地震計が据え付けられていたが震度の発表はなかった。

プにオノを入れた。ロープはプッツリと切れ、タルは赤黒く泡を浮かせた濁水にドボンとにぶい音をたて、吸い込まれていった。この瞬間作業の成り行きを見まもっていた数百人の作業員の間から「バンザイ」の声がわき上った。第一号排水路は直径六・六米の円形で、長さは九百米。旧長野部落の裏山の下をくぐり、部落はずれのところで元の九頭竜川にかえっている。今後はダムの底部補強からダムづくりとなるわけだが、本体の定礎式は六月中旬頃になる模様。



この爆破された原石は、二十五日到着した我が国始めての三〇トンダンブでダムサイトへ搬出を行なう。この日元長野におられた宮沢西夫さんや古世賀雄さんの顔が見られたが、長らく住みなれた土地だけに感慨も入ったことだろう。

写真は二百トン大ハッパの一瞬。

◎ その席に居ない人を非難するな

季節風

PTAの使命

小学校、中学校、高等学校とそれぞれに一年生として希望と期待にあふれて入学する新学期。子供達が新入生になると父兄は即ちPTAの一員ということになります。

ところで周知のPTAの語義は、Pは即ち親の意味、父又は母。Tは先生教師。Aは連合、つまり会の略で、いわゆる親と教師の会ということになっています。教師と家庭が学校、社会に於ける子供や青年の幸福な成長のために同等な資格で協力し合う教育的民主的な団体ということで、つまり子供の教育について両親、教師が話し合うという機関で生れた組織ともいえましよう。

ほんとうに子供の幸福を高めるには両親と教師の協力がなければならない事が痛感されて、明治四十一年母と教師の全国協議会という組織ができて、その後いろいろの変遷を経て今日のPTAと呼ばれるものに成長しました。今やPTA活動は全国的に活発化され益々成果をあげています。現在、全国小中高の学校でPTA会のないところは殆どない状態となっています。

もちろんPTAの目的の中心はこどもの福祉を増進することにあるが、そのためには、たのしい学校と家庭が用意されなければならないので、学校の運営や教育について父兄もこれに参加し協議し、父兄と教師が互いに協同して教育の任に当り、父兄も先生も同様に教育に対して一緒に責任を持たねば

ならない様になっています。

この父兄も成長しなければならぬことから講演会や料理講習会などの成人教育、社会悪から子供を守るための社会環境の浄化、子供が勉強しやすい環境を作るため、学校設備の拡充促進を働きかけるなども行います。

家庭と学校、教師と父母との連絡を緊密にし、互に本当の協力を持つて進んでいるPTAが連絡機関のみならず成人教育の機関としてもその存在が高く評価されていることも忘れてはならないことです。

派出所から

▲ドロボウや暴力を防ぐコツ

一、戸締りにはドロボウ泣かせの完全なカギを

二、おでかけのときはカギかけて、隣へひとこと

三、小さな暴力でも見のがさず、勇気を出して届出を

▲子供を交通事故から守りましょう

一、朝は子供に余ゆうを持たせるために早目に家を出しましょう

二、忘れものがないように、しかも気軽によく送り出すように

三、子供は集団登(下)校しましょう

四、道路での遊戯は止めましょう

▲運転者のかたへお願い

一、子供を見たら先ず徐行しましょう

二、飲酒運転は絶対止めましょう

三、速度制限を守りましょう

四、見とおしの悪い交差点、曲り角では徐行しましょう

五、二輪車に乗るときはヘルメットを使用しましょう

へき地 複式教育研究大会

七月二十三、四日本村で

昭和二十八年七月二十三、四日に第一回大会が当地で開かれ大好評を得、今でも下穴馬大会として古い教師の間では語り草になっていますが、今年度大会は県下各地都市を一回りして再び当地で開催されることになりました。

七月二十三日は各学校を分会場として午後一時から授業、発表、研究会がもたれ各校下で民泊をお願いし、翌二十四日は八時から朝日中学校で全体会がもたれる計画になっています。この研究大会は当地の計画、実施などが県下のモデルになつてきたわけですので特に今回は集まる先生方にも、当地の子どもたちにも、当地の子どもたちにも、ひいてはご父兄方にも、「ほんのために」なつた」と喜ばれるような大会になるよう準備運営委員会が目下、企画、準備を着々進めております。

また今回は、初めて文部省からも担当官が来村されることになっております。学校教育面での準備態勢は殆んどとのつて、子どもの実力をたかめ、「いずみの子たちはよい子たちだなあ」と感心してもらえよう各校の先生方は学習、娯楽、環境整美などに力を尽くし、この機会を利用して和泉の教育が一段と向上するように努力しています。

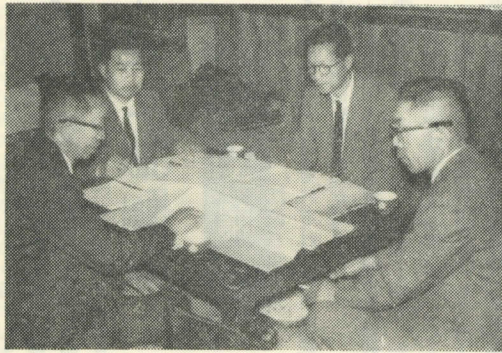
民泊について 村民のご協力を

分会場となる各部落には大変厚がま

しいおねがいでありますが、県下から参集する先生方の宿泊についてご面倒をお願いしたいわけではあります。今のうちから山の幸である、ぜんまい、うどん、わさび、ふき、などご準備いただいて、第一回大会で得た印象をさらに山の味覚で高めていただけるとしあわせです。各分会場での計画はつきのとおりです。

統合神社や 残地山村など 水没代表委員会を開く

電源開発対策協議会水没地域対策委員会（委員長尾崎彦次郎氏）では、四



す。村民各位のご協力を切におねがいをいたします。

分会場	教科等	参集者数
朝日小	社会	三十名
朝日中	算数	三十名
朝日中	学活	三十名
後野分	社会	三十名
大納小	音楽	三十名
下山小	特活	三十名
下山小	算数	三十名

註：各分会場毎に参集者数に二、三名の指導者数がつけたされます。なお朝日地区では来賓数が十名程さらにはふえる予定です。

月十六、十七の両日、役場本庁で代表委員会を開いた。

席上、残地山村の育成対策、統合神社問題、さらに水没移住者の写真帳の製作などについて協議したが、いずれも決断は次期委員会に持越した。

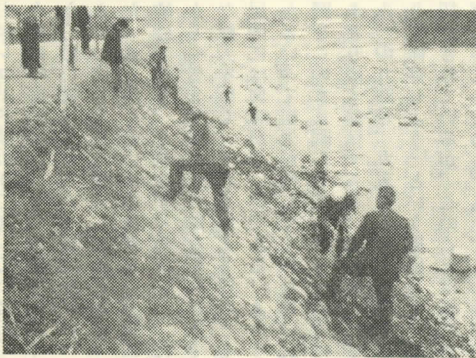
なお追加補償の支払状況についても審議したが、書類不備のため約三割は未払となっている。

写真には久々の委員会で審議中の尾崎小沢、中山、長谷川の各委員

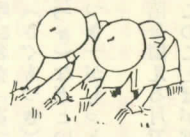
役場職員全員で 堤防の大掃除

朝日の中心に当る警察派出所前の国道交差点附近の九頭竜川堤防は、いつの間にかやらかない人の残飯やゴミ捨場と化し、三、四十m近くまで、何ともいえない臭いにおいが鼻をつき、道行く人々の中にはハナにハンカチを当てて通る人もいた位だった。

かねて気にしていた役場職員一同は



農事



◎ 苗代の水管理
日中は浅水に、夜または低温時には深水にし、絶対水を切らさないこと。

▲ 根付肥は、田植後十日以内早目に

四月十一日朝、宇野助役自ら陣頭にスコップ、鍬、竹ボキなどで大掃除を行なった。これを見兼ねた附近の人々も応援し約五十名が参加、しまいには消防自動車まで出動して、徹底的に大掃除作戦を展開した。

朝日橋から朝日中学校裏に至る堤防はこれですっかりきれいになり、みんな大喜びだった。

写真には、宇野助役を先頭に堤防を大掃除中の役場職員。

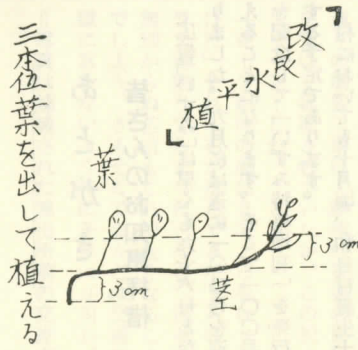
施用する。

効果は

- (1) 初期生育の促進
 - (2) 早く分けつさせることは太いくきによる大きな穂をつける。
 - (3) 施肥量は、硫安反当四Kg位
- ▲ 施肥後は、三日間位は絶対水を落さないこと、中耕すると一層よい

◎ さつまいもの作付法

- (1) さし苗の密度(標準) 七〇cm×三〇cmがよい。
- (2) 施肥量は蔬菜一号をアール当り四Kgがよい。
- (3) 苗さし法



◎ 馬鈴薯の病虫害防除

- (1) 疫病防除
葉に黒褐色の斑点ができて枯死する病気が、五月末頃から数回「水銀ボルドー粉剤」を散布するとよい
- (2) テントウム虫の防除
「DDT粉剤」が最適

◎ 子どもは食う、遊ぶ、寝る権利があるが、叱られる権利もある。

出初式盛大に挙行

大納校三生徒に感謝状

和泉村消防団出初式は四月二十一日晴天にめぐまれ、電発グラウンドにおいて盛大に挙行された。

まず開会宣言、国旗掲揚のあと殉職団員の冥福の黙とう、谷口団長の訓示、村長の告示、観閲、ポンプ操法など型どおりの行事のあと、川合区において模擬火災、さらに朝日橋下で出初式の花、五色のあやなす放水試験は参観者の目を魅了した。

分列行進に続き、講評に立たれた県消防防災課岩本課長は「さすがに県下に誇る優秀な消防団として目を見張るものがある」との好評をいただいた。

この日、去る三月五日上大納笠川飯場火災のとき発見と同時にいち早く谷口団長に通報して、大火をまぬがれた



大納小学校五年 山岸信吉君
同 中学一年 多田博久君
同 江波三津男君

らの功績に対してそれぞれ、谷口団長から感謝状を贈呈した。

また四〇・九三大風水害のときの功勞に対し、

谷口秀雄氏(第四分団長)
伊藤 湜氏(第五分団長)
の両氏に杉本村長から特別功勞章が授与された。

写真上は感謝状を手に喜びの(左から)多田、山岸、江波の三君。
下は川合道場附近の模擬火災の一コマ。

ダムの中の春のふるさと削りとり
旧懐の涙に曇るダム現場
(寄稿 木島正章)



みんなで育てよう

穴馬の民踊

近頃は「骨まで愛して」などというすごい歌が小さな子供の口からでもとび出すほど流行している。▲歌は世につれ、世は歌につれて人類から歌を別離することはできない。機嫌の良いときは自然に鼻歌がとび出すものであるし、酒の肴としても歌を切り離す事はできない。▲そもそも歌のおこりはわれわれは民謡と呼んで今なお歌い続けている。▲しかし土地によつては、もう忘れられていくものも少なくない。和泉村の各地でも盆と祭りには、みんなが輪を作つてその民謡を踊っているが、誠に残念なことに、それがふるさと(和泉村)の民謡は僅かで、大方が他県からの輸入品でしかない。▲全部が全部ふるさとの民謡でなくても、その中のたとえ一つでも地元の歌があるのは何よりも結構なことで、何としてでもこれを保存し、後世に遺し伝えたい気持ちにかられるものである。▲そこでこんな話がある。盆踊りの夜若い連

◎ 広報は、とじて保存しましょう

中がレコードばかりで踊っていたら、今度は年寄連中が、その部落で「古くから歌い続けられている民謡を踊れ」といい出して正面衝突したことがあった。▲とかく若い連中は新しい感覚に敏感であり、それをすぐ吸収する。だから「骨まで愛して」的な歌には大きな魅力を感じ、それを覚えるけれども民踊には興味が少ないのである。▲そうかといって祖先が残してくれた尊い民踊をこのまま眠らせてしまったのではあまりにも無情すぎる。▲本紙「いずみ」の九四号、九五号には「穴馬おどりを保存しよう」という見出しで一部紹介されているが、このことは誠に喜ばしいことである。▲ただこの呼びかけが単なる呼びかけだけで済むことなく、広く民衆の中にとけこんで、それがふくらむような努力を保存会の関係者に御苦労さんでも望みたいのである。そして老いも若きも穴馬音頭で仲良く輪をえがいて踊ることができたら、何とすばらしいことであろうか。

五月の解説



陰暦では五月の呼び名を「さつき」「仲月」「授雲月」(さぐもつき)、「五月雨月」(さみだれつき)などといいますが、そのうち「さつき」がもっとも一般的でしょう。

陰暦五月は、早苗を植える月であるということから、このことばが縮まっ

て「さつき」と呼ばれたというのが定説のようです。一説には「幸月(さちつき)が転化したともいわれています。古代の日本人がまだ狩りを生活の主たる手段としていた時代に、五月はたくさんの獲物(主として魚類と考えられます)が手にはいった幸多い月であるところからこの呼び名があるとも考えられるわけです。

いずれにしても、これらの呼び名は日本人の古代生活のなごりを示すことばといえましょう。

あとがき

皆さんのお知恵拝借

広報「いずみ」は早くも九十六号となりました。九月には遂に一〇〇号を迎えることとなります。そこで一〇〇号を記念して「いずみ特集増刊」を発行する予定であります。

村においても十月頃、和泉村誕生十周年記念行事を計画しております。

読者の皆さんも「ぜひこんなことを」とお考えのことがありましたら、お知恵拝借願いたい。

よりよき広報「いずみ」の活用をしたいと思います。

(おことわり)

前号の編集に「むら」があり読みにくい点があったことをおわびします。

